

令和5年度学校自己評価システムシート（県立三郷高等学校）

目指す学校像	志と思いやりの心を育み、生徒一人一人の進路を実現する学校
--------	------------------------------

重点目標	1 集団の一員としての自覚と規律の確保 2 基礎学力とコミュニケーション能力の定着 3 キャリア教育を生かした志の育成 4 家庭・地域と連携した安心安全な教育環境の提供
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	6名

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (2月1日 現在)		
年 度 目 標			年 度 評 価 (2月1日 現在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
				次年度への課題と改善策			
1	【現状】 ・年間総欠席数4%減少(前年度比) ・年間総遅刻数12%増加(前年度比) ・年間総早退数29%減少(前年度比) ・生徒指導件数26%減少(前年度比) ・個別に課題を抱える生徒への支援77回(SC23,SSW24,日本語支援30) ・自転車年間交通事故件数15件 【課題】 ・基本的生活習慣の改善が必要な生徒が一定数いる。 ・社会規範が身に付いていないと思われる生徒が一部いる。 ・生徒の安全に対する意識や行動を改善する必要がある。 ・個別に課題を抱え支援を必要とする生徒が一定数いる。	○基本的生活習慣の定着、社会規範の確立、安全意識・安全行動の醸成、個別の課題を抱える生徒に対する支援体制の充実	①教員による登校指導・授業前整容指導の継続実施(通年) ②皆勤賞、善行賞等の校内表彰の実施(年3回) ③生徒による挨拶運動、交通安全に対する意識啓発運動の実施(年3回) ④交通安全、非行防止に関する講演会の実施と内容の充実(年4回) ⑤SC、SSW、日本語支援員の活用推進(通年)	①欠席、遅刻、早退の年間総数と前年度比、個別指導の実施 ②表彰生徒総数 ③意識啓発活動の実施 ④交通事故件数、生徒指導件数 ⑤SC、SSW、日本語支援員の活用状況、多文化共生事業実績	①欠席(前年度比21%増)、遅刻(前年度比15%増)、早退(前年度比19%減)、全教職員による登校指導や欠席、遅刻の多い生徒への個別指導を実施した。 ②表彰生徒総数562名(成績優秀337、皆勤201、部活動等24)、学習や部活動などで懸命に学校生活に取り組む生徒も多くいる。 ③吉川警察署との交通安全啓発活動(年7回)、地域機関と連携し、生徒自らが意識啓発を呼びかける活動を通して生徒の安全に関する態度を醸成した。 ④交通事故件数(前年比47%減)、生徒指導件数(前年比31%減)、生徒の交通事故、問題行動ともに着実に減少している。 ⑤SC23回(30件20名)、SSW23回(48件26名)、日本語支援員35回(15名、うち日本語能力検定受験者12名)、毎週水曜日放課後に日本語クラブを開催し、日本語支援が必要な生徒への支援を行った。	B	今年度も「凡事徹底」を合言葉に全教職員による登校指導や月別出欠統計結果の公表、個別指導、皆勤者表彰等を行い、生徒が自らの意思で欠席、遅刻等を改善できるよう支援したが、思うような成果は得られなかった。次年度は、あらためて欠席、遅刻の要因、傾向等を分析し、不登校傾向の生徒に対する支援策や防止強化期間の設定、個別指導の充実、家庭への協力依頼など、改善に向けた包括的な取り組みが必要である。また、地域機関との連携を通じた生徒による啓発活動等については次年度も継続したい。 個別に課題を抱える生徒に対する支援については、各専門家と情報共有と校内の支援体制をさらに充実させ、多くの成果を得ることができた。次年度も引き続き県事業を申し入れ、各専門家との連携による生徒支援に努めたい。
2	【現状】 ・学習に意欲的に取り組んでいる生徒の割合68% ・家庭学習が30分以下の生徒67% ・Classroom配信を欠かさず確認している生徒75% ・ICTを活用した授業を実施できる教員の割合85% ・社会性を身に付けるための各種講演会に対する生徒の満足度92% 【課題】 ・学習意欲の乏しい生徒が3分の1程度いる。 ・Classroom配信による学校連絡を確認しない生徒が4分の1程度いる。 ・教員自身のICT活用スキルは飛躍的に向上したが、生徒にICTを活用させる学習機会には課題が残る。 ・家庭学習時間の増加に向け、ICTを効果的に活用する必要がある。 ・引き続き講演会の内容を充実させる必要がある。	○基礎学力の定着、ICT活用による生徒の学習意欲を高めるための授業改善、デジタルツール活用による生徒の自己管理能力の育成と家庭学習機会の充実、各種講演会による社会性の育成	①成績優秀者の校内表彰(年3回)、マナトレ・Classi・Classroom等の活用による基礎学力の定着(通年) ②相互授業見学(年2回)、ICT活用研修(年2回) ③Classroomを通じた自己管理能力の育成(通年) ④Classi、Classroom等での動画・課題配信数(前年比較) ⑤社会性を身に付けるための各種講演会の実施と生徒アンケート結果(生徒満足度9割以上)	①成績状況分析とICT活用状況 ②ICT活用教員研修会の実施(年2回)、相互授業見学生徒アンケート結果(学習意欲/自己評価7割以上) ③生徒アンケート結果(自己管理能力/自己評価7割以上) ④Classi、Classroom等での動画・課題配信数(前年比較) ⑤社会性を身に付けるための各種講演会の実施と生徒アンケート結果(生徒満足度9割以上)	①成績優秀者割合(1年33% 2年39% 3年51%)、成績不振者割合(1年29% 2年33% 3年8%)、本年度より電子辞書アプリを導入し学習環境を整備し、授業等での活用も着実に増加している。 ②他校(三郷北高)との相互授業見学会2回、校内での相互授業見学会2回、計4回実施し教員のICT活用スキル向上の機会を創出した。 ③ICTの利用による自己管理能力に関する自己評価63%、Classroom等によるWeb連絡等を有効に活用していると思われる生徒62%であった。 ④Classiによる週末課題配信数(国数英)は年86回(前年度93回)であった。 ⑤各種講演会実施回数への34回、各種講演会等に対する満足度93%、実施内容についても時代に即応したテーマで実施できた。	A	タブレット導入2年目となり、電子辞書アプリ、自動採点システムなど、ICT活用を推進するための環境を整備した。また、他校とICT活用授業の相互見学会等の研修会を設けるなどして活用機会創出のための取組を進めた。一方、授業や家庭学習における活用頻度は教師個人、生徒個人ともに利活用に差が生じている。次年度、全生徒1人1台環境が整う予定であるため、これまで以上に利活用を加速化させる必要がある。また、今後を見据え生成AIの活用に関する研究を進める必要がある。このほか、各種講演会の内容等についても精査するとともに時代に合ったテーマを取り扱うことができるよう改善に努めたい。
3	【現状】 ・進路学習を意欲的に取り組めた生徒の割合76% ・R4進路実績(進学102、就職31、進学準備等23) ・進路行事・学習に満足している生徒の割合92% 【課題】 ・進路学習を意欲的に取り組めない生徒が4分の1程度いる。 ・進路ノート活用、ICT活用等の学習機会を通じて進路意識を計画的に醸成する必要がある。 ・希望進路先確保のため関係構築を引き続き推進する必要がある。 ・安易な一時的就労選択者に対する指導・支援に工夫改善が必要である。 ・進路意識を明確に持たせ、生徒の意欲や主体性を育む進路指導の推進を継続する必要がある。	○計画的・体系的・体験的なキャリア形成支援、進路学習・活動に関する意欲の醸成、希望進路の実現	①3カ年進路指導計画の策定と学年差のない指導の実践(通年) ②進路ノートの活用と計画的な進路指導の実践(通年) ③Google Classroom、Classi等を活用した進路情報の提供(通年) ④進路開拓・継続のための取組(通年) ⑤一時的就労希望者への個別支援(3年) ⑥外部講師による模擬面接(通年)	①進路指導の計画と実施実績 ②生徒アンケート結果(進路意欲/自己評価8割以上) ③進路情報の提供頻度(回数) ④進路出張実績、来校者対応実績 ⑤進路カウンセリング、個別相談実績 ⑥外部講師の活用実績	①すべての学年で当初計画のとおり進路行事を実施した。1月現在の進路決定率90%、進路内訳は進学内定者103名(大学33、短大4、専門66)、就職内定者21名(民間21)、一時的就労希望者14名 ②進路学習および進路活動に関する生徒の意欲81%、満足度85%であった。 ③1年進路学習アプリ(スタディサプリfor SCHOOL/未来辞典)によるキャリア教育情報提供2年、上級学校スライド作成による情報収集、3年Classroomによる連絡年13回、さまざまなツールを活用して進路情報を提供した。 ④進路開拓のための訪問62回(大学20、企業42)、来校企業約230社、求人受付約600社、来校上級学校242校であった。(前年比約1.2倍) ⑤⑥就職支援アドバイザーによる個別面接指導18回実施、利用者延べ人数200名、2.3年生徒に対し個別面接を実施した。	A	本年度も組織的、計画的に進路学習を進め、昨年度と同水準の実績を得ることができた。また、ICTを活用した進路学習、進路活動も実施し、個別最適な進路支援の充実ができた。一方、毎年3年時の希望進路に見られる一時的就労希望者に対する支援については課題が残る。家庭の経済状況等によることもあることから、より丁寧な支援と指導が必要である。
4	【現状】 ・Classiによる通知文等の配信42 ・R4学校HPの年間更新回数163 ・特別教室への冷房設置決定 ・PTA後援会の校内行事の全実施 ・生徒募集の工夫改善(地域進学フェア2、学校説明会4、中学校教員対象学校説明会1) ・学校施設開放の継続実施 ・三郷市および三郷市教育委員会との連携事業の実施 【課題】 ・さらに家庭・地域との連携し、開かれた学校づくりに向けた取組が必要である。 ・生徒募集を含めた学校の魅力発信のための取組をさらに充実させる必要がある。 ・安心安全な学校に向け、継続的・計画的に校内修繕等を進める必要がある。	○家庭・地域との連携強化、学校の魅力発信、安心安全な学習環境の整備	①ICT活用による保護者への情報提供の推進 ②PTA・後援会との連携事業の充実 ③小中学校、地域要請事業への協力 ④地域進学フェアへの参加、中学生への授業公開、生徒募集の工夫 ⑤学校説明会等の実施と内容の工夫 ⑥学校HPの積極的更新による学校の魅力発信(通年)	①Classiによる情報配信実績 ②保護者の本校教育に対する理解度 ③協力要請事業に対する協力実績 ④地域進学フェアの参加回数、中学生への授業公開の実施、生徒募集の取組状況 ⑤学校説明会の参加人数と志願状況 ⑥学校HPのリニューアルと更新回数	①学校通知文や授業料等の連絡を年59回配信し、前年度より1.4倍増の活用となった。(R4 42回) ②学校行事、学校HPによる情報発信、Web通知、Web連絡、保護者面談、個別連絡・相談等の機会を通じて本校教育に対する理解は得られている。 ③中学校の訪問依頼(1回)、三郷市社会教育事業依頼(1回)、埼玉東たばこ商業協同組合の未成年喫煙防止運動協力依頼(年1回) ④越谷市、さいたま市等で計4日参加、公開授業1日開催(5月)、出前授業(1回)、生徒募集行事の見直し及び改善を行うとともに本年度も中学校教員対象の学校説明会(10月)を実施した。 ⑤本年度の学校説明会の参加人数は延べ348家庭であった。(第1回136、第2回98、第3回91、第4回23、R4 300)また、12月時点での生徒募集倍率は0.87倍(R4 0.60倍) ⑥学校HPに360°カメラを用いた「バーチャル学校見学」を追加し、校内施設等を公開した。1月時点での更新回数170回(R4 163回)	A	本年度も「学校の魅力発信」を最重要課題と位置付け、学校HPの工夫改善、生徒募集計画の改善をはじめ、生徒募集に関する広報活動に全教職員で積極的に取り組んだ。学校説明会では生徒主体の説明会を実施するとともに各回の内容や説明資料を工夫した。新たな取り組みを進めた結果、生徒募集状況にも大幅な伸びが見られた。次年度も本校を知らない中学生及びその保護者等に向けて魅力を伝えられるよう、発信の手段や方法等について引き続き研究を進める必要がある。

学 校 関 係 者 評 価	
実 施 日 令 和 6 年 2 月 2 日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	・欠席、遅刻に向けた取組は短期に成果が得られるものではないので中期的な視点に立って引き続き粘り強く取り組んでほしい。 ・生徒の頑張りを表彰する取り組みは大変素晴らしい。今後も生徒の自己肯定感を様々な形で高める取り組みをしてほしい。 ・吉川警察署と連携した交通安全啓発活動は大変よい取り組みである。また、SC・SSW・日本語支援員等の外部専門家を活用した生徒支援も大変評価できる。次年度も継続して取り組んでほしい。 ・校則等のあり方について様々な意見があると思うが、生徒たちとの対話が肝要である。「なぜ校則があるか」を生徒に考えさせるとともに一緒に考える機会を設けるなどして学校として良い方向を導き出してほしい。
・1人1台端末の環境が整い、先生方の活用に向けた取組の成果が随所に伺える。次年度、全学年の生徒が端末を利用することを踏まえ、さらに学校全体で推進して行ってほしい。 ・他校と合同で行ったICT授業見学など、授業研究にも積極的に取り組んでいる。次年度以降もさらに工夫した教員研修に努めてほしい。 ・デジタル教科書等に関する検討はどの程度進んでいるか。今後の検討材料とすることが望ましい。 ・生徒たちが授業を通してグループワークや端末を活用して主体的に学んでいる様子がよく理解できた。 ・自動採点システムや電子辞書アプリの導入など、新たな取り組みに対する先生方や生徒の反応はどうか、効果等を今後検証していくことが必要である。	・本年度の進路実績等から充実したキャリア教育が行われたことが伺える。次年度も工夫を加えつつ生徒一人ひとりの進路実現に向けて引き続き取り組んでほしい。 ・入学年次から自分の将来について考えさせることはとても大切である。進路学習の時間だけでなく教科横断的な学びとして自分の夢や将来、生き方等について複合的に考えさせる機会を設けられるとさらによい。 ・WEB出願やWEB面接も進むことが予想されるので、進路学習でのICT活用も引き続き進めてもらいたい。 ・学びたいと願う生徒の進路が実現できるよう学校としてできる指導を引き続き行ってほしい。
・学校HP内で開設した「バーチャル学校見学」は大変見やすく、評価できる。また、HP更新回数や内容も学校全体での努力が伺える。苦労も多かったろうが引き続き魅力を発信し続けてほしい。 ・生徒募集に関する取り組みについては、学校全体で力を入れた成果が生徒募集の改善によく表れている。今後も引き続き魅力発信に努めてほしい。 ・今後は、三郷高校のこれまでのイメージをどう脱却できるか、そこに掛かっていると思う。次年度も教職員一人ひとりが三郷高校への愛着を持ちつつ、一致団結して様々な課題の解決にあたってほしい。	